

# AIDS 2005



World Foundation Aids Research and Prevention  
世界エイズ研究予防財団 日本事務所 通信





## 世界エイズ研究予防財団理事長 リュック・モンタニエ博士



Prof. Luc MONTAGNIER  
エイズウイルス発見者  
ルイ・パスツール研究所教授  
世界エイズ研究予防財団理事長

日本のH I V感染率は、諸外国と比較すると確かに低いですが、H I V感染者、エイズ患者の数は、毎年確実に増加しています。日本は、この事実を十分認識し、特に若い人たちへ向けた予防キャンペーンをもっと行うべきだと思います。

世界エイズ研究予防財団は、ユネスコの協賛により設立され、発展途上国のエイズ患者への支援を中心に活動していますが、私どもの日本事務所は予防教育に力を注いでおり、この活動が広がっていくことを希望しています。

エイズは、空気感染する病気ではありません。主な感染経路は、母子感染、麻薬などの注射器の使い回し、そして特に注意の必要なのが性感染です。

H I Vは全世界的な問題であり、誰もが避けられない問題だということを、日本の人々にも理解してほしいと願っています。

### リュック・モンタニエ博士

1932年8月18日生まれ。パスツール研究所の共同研究者を率い、1983年、世界に先駆けて後天性免疫不全症候群（エイズ）の病原体であるヒト免疫不全症ウイルス（H I V）を発見し、H I V研究の糸口を開きました。1986年、モンタニエ博士のグループは、第2のエイズウイルスHIV を新たに発見。1991年には、彼の研究チームによってH I V感染者の体内でTリンパ球が消失するメカニズムがアポトーシス（プログラムされた細胞死）であることが突き止められました。

エイズの爆発的な増加を危惧したモンタニエ博士は、1993年に、当時ユネスコの総裁であったフェデリコ・マヨール氏と共に、パリのユネスコ本部に世界エイズ研究予防財団を設立しました。そしてエイズの被害の最も大きい地域であるアフリカに予防や治療の新たな発展の成果を導入するためコートジボアールの首都アビジャンにエイズ研究センターを開設しました。多くの診療所や病院が近年の状況に苦しむ中、センターにはますます多くの患者さんがつめかかっています。また、カメルーン共和国のヤウンデに、財団による二番目のエイズ研究センターが新設される予定です。現在、モンタニエ博士は、高価でずっと服用が必要である現在のエイズ治療法に代わる治療用ワクチンの開発に取り組んでおり、臨床試験の開始に向けて日夜研究を続けています。

# ion for Aids Research and Prevention

## 日本事務所代表 林 幸泰

2004年末、国連合同エイズ計画の発表によると世界のエイズ患者、HIV感染者は、約4千万人にものぼり、同年1年間で、430 - 640万人が新たにHIVに感染したと推計されています。

我が国は、厚生労働省発表数にて世界と比較しますと、まだまだ安全な国であるといえます。しかし現在先進国において唯一感染者が増加しているのが日本であり、その中でも男性の感染者は年々増加しており、若年層への感染も広がっています。

また、経済の面からエイズをみてみますと、いったんHIVに感染すると、エイズ発症を遅らせる薬代に年間約200万円が必要となり、社会保険はその70%をカバーし、国全体の負担は一人あたり年間140万円となります。

これは、明らかに負の予算であり、地方自治体、国は、今後ますます医療費の負担増を余儀なくされることとなります。地方自治体は、各々の市民、町民をHIV感染より守り、一人あたり年間140万円の税金を守る義務があります。それには、AIDSにとって最も効果のある小中学生へのエイズ予防教育を進めていくことがますます重要となってくるでしょう。



(財)世界エイズ研究予防財団  
日本事務所 代表 林 幸泰

世界エイズ研究予防財団 日本事務所は、山と緑に囲まれた自然の豊かな岐阜県揖斐郡大野町に1997年に設立されました。財団では「エイズの最良のワクチンは教育である」という考えに基づき、地元大野町を中心に、小中学校やPTA等のご理解のもと、対話を通じた



世界エイズ研究予防財団 日本事務所

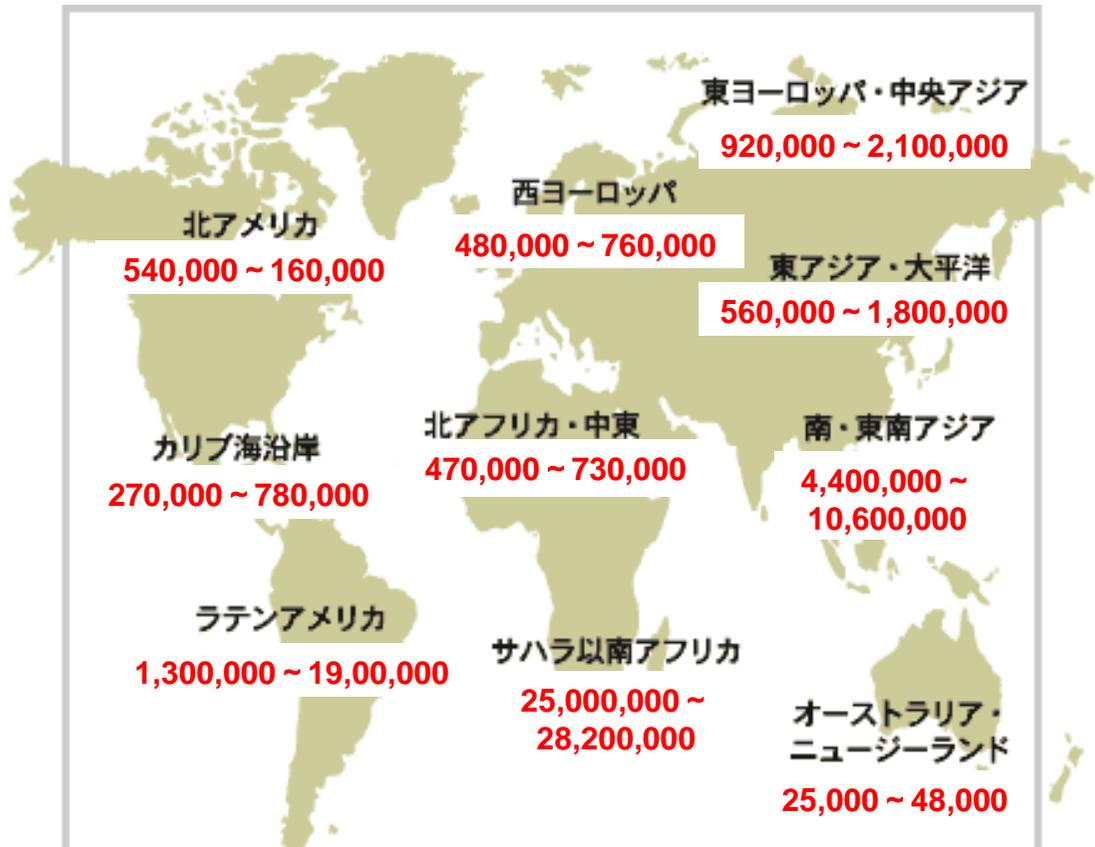
草の根エイズ予防活動に努めております。又、地方レベルでのエイズ予防教育に加え、チャリティーコンサートの開催といった音楽とエイズ予防教育を組み合わせた独自の活動も展開しています。

スタッフ一同、ひとりでも多くの方が正しい知識を持ち、エイズにかからないよう、エイズ予防活動に努めて参りますので、今後とも暖かいご支援の程宜しくお願い申し上げます。



# World Epidemic of Aids / HI

## HIV感染者(成人・子供)推計総数 (2004年末現在 UNAIDS / WHO発表)



2004年12月にUNAIDSが発表した昨年1年間の新規HIV感染者数は

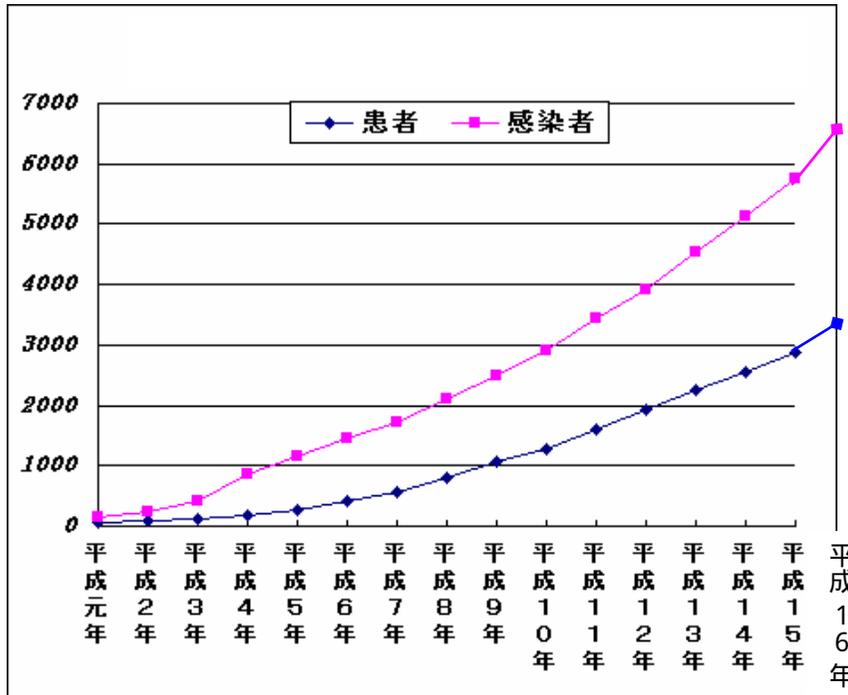
**430万人 ~ 640万人**

現在エイズと共に生活している人(生存中の感染者及び患者数)は

**約4000万人**

と推計されています。(2004年末現在)

## 日本のHIV感染者・AIDS患者報告数累計推移



HIV感染者数  
6527人

エイズ患者数  
3257人

平成16年1年間の新規報告数は、HIV感染者・エイズ患者のいずれも過去最高となり、年間報告数としては、感染者・患者あわせて1165件で初めて1000件を突破しました。

平成17年1月2日現在

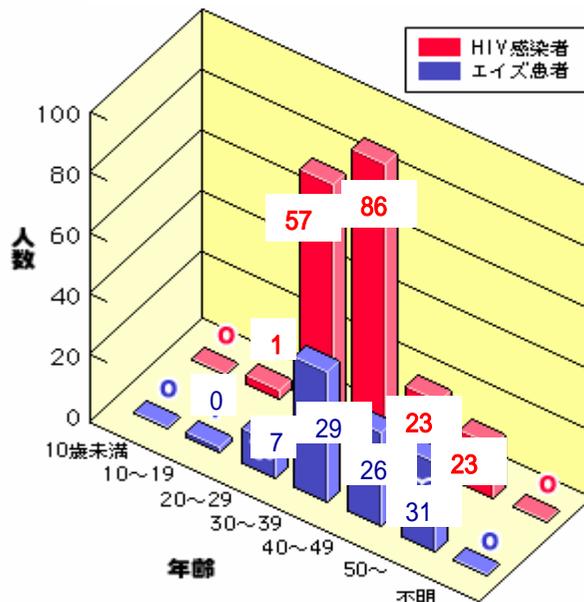
### 若年層の感染がさらに深刻に！

年齢別に見るとHIV感染者では20代、30代の占める割合が高く、感染者全体の75%を占めています。

エイズ患者では、30代以上で92%を占めているが、20代の報告も7件ありました。

### HIV感染者およびエイズ患者の年齢別報告数

(平成16年9月27日～平成17年1月2日)



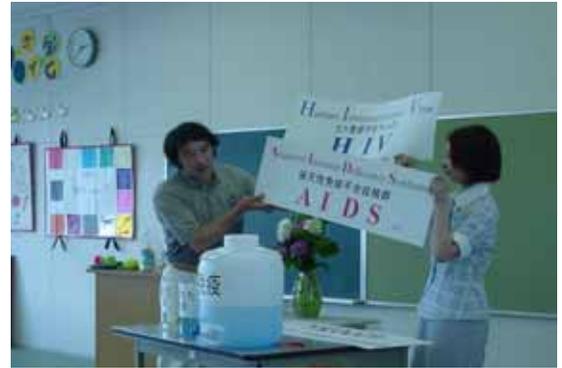
# Activity Reports April 2004 - Mar

世界エイズ研究予防財団 日本事務所では、岐阜を中心にエイズ予防親御さんとのふれあいの場をもつことができました。講演会を企

## PTA対象 家庭教育学級

養老郡上石津町立牧田小学校

母親向けの家庭教育学級にて「家庭でのエイズ教育のあり方」をテーマに講演をおこないました。エイズについての基礎知識から、子供とどのように話をすればよいかといった具体的な方法にまで話は及びました。



## 中学1年生対象

岐阜市立梅林中学校

大変暑い中、162名の生徒さんたちが真剣な眼差しで話を聞いてくれました。日本のエイズの現況は、予想以上の数字だったようで印象に残った様子でした。生徒さんからは「今まで知らなかった感染経路がよくわかったのが良かった。」等の感想が聞かれました。

## 中学校全校生徒対象

岐阜市立東長良中学校

全校生徒514名および教職員対象と大人数での講演会となりましたが、生徒さんたちの関心は高く、質疑応答にも積極的に参加していました。時間がなくて質問できなかった生徒さんの質問を後日財団に送っていただきました。

(13 - 14ページをご覧ください。)





防啓蒙活動を行っております。今年もたくさんの子供達、先生方、  
画・ご依頼くださいました皆様、ありがとうございました。



## 養護教諭の先生対象

### 不破郡養護教諭部会教育研究会

エイズ教育に取り組む養護教諭の先生方の研究会に呼んでいただきました。エイズの基礎知識を学んだ後、教育現場で先生方が実際に困っていること、改善したい点など、非常に活発な意見交換が行われました。

## 小学校6年生及び父兄対象

### 垂井町立岩手小学校

上記の研究会に参加された先生のおひとりからご紹介を受け、不破郡垂井町岩手小学校にお邪魔しました。エイズ予防講演を授業参観と組み合わせて企画していただき、授業の後、ご父兄の方々とも話をする機会がありました。子供達の理解の早さに驚きの声もあがりました。



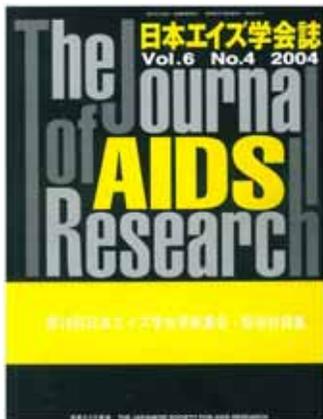
## 小学校6年生対象

### 大野町立北小学校

今年も北小学校の6年生が、エイズを学習するため財団を訪れてくれました。子供達は、去年先輩たちがしてくれたのと同じように、学んだことをメッセージとして掲示し、後輩たちに思いを伝えるそうです。また、この時の様子は、3月13日放送の岐阜放送の番組でも紹介されました。



# Activity Reports April 2004 - Ma



2004年12月9日から11日にかけて静岡コンベンションアーツセンターにて開催された「第18回日本エイズ学会学術集会・総会」に参加してまいりました。参加総数1000名以上、医療関係者のみならず、福祉関係者、教育関係者、NPO団体等様々な顔ぶれが参加するこの学会に、世界エイズ研究予防財団としては三度目の参加となりました。今回は、学会長である三間屋先生からの要請を受け、学会2日目に、当財団の主催で特別公開講座を開催しました。エイズウイルス発見から20年の節目に行われたエイズ学会での活動の様子をレポートします。

## TOPIC 1

### 展示内容も一新！ ブースでの啓蒙活動

学会展示ブースにて、エイズに関する資料の配布やチャリティーグッズ(レドリボンバッジ)の販売などのエイズ予防啓蒙活動を行いました。今回は、財団の草の根活動をより多くの人に知ってもらうために展示内容や資料も新しくしスタッフも5名参加しました。多くの方々がブースを訪れ、財団独自の活動に興味を示してくださり更なる活動の広がりに向けてよい刺激となりました。3日間の募金の総額は53,200円になりました。



世界エイズ研究予防財団学会展示ブース前にて

## TOPIC 2

### レドリボン号3台で 特別公開講座をPR



左：林代表 右：モンタニエ博士



学会2日目特別公開講座当日、会場横のグランシップ広場にて、レドリボン号(ディフェンダー)3台を展示、力強いディフェンダーを通じて予防教育を進める意志をアピールすると共に、イベントに花を添えました。

モンタニエ博士も駆けつけてくださり、足を止めてくださった学会参加者や静岡市民の皆様に向けて、シンポジウムのPR活動を行いました。



## TOPIC 3

### 公開シンポジウム 「モンタニエ博士と語ろう ~今を生きる~」



受付で大学生にプログラムを配布するスタッフ



ピアニスト 徳江陽子さん



京都大学大学院 木原教授

シンポジウムは世界エイズ研究予防財団日本事務所代表 林幸泰の司会で幕を開け、学会長三間屋純一先生、「静岡県内22大学緩やかな連携」の木村教授のあいさつに続き、徳江陽子さんのピアノ演奏が行われました。モンタニエ博士の講演に先立ち、京都大学大学院木原正博教授が講演し、今までのエイズの世界の広がりや将来の予測を解説、わが国の特徴として異性間性交による感染が多いこと、感染者増とコンドーム使用が反比例の関係にあること、献血時の血液検査により感染が判明する割合が突出して高いことなどを説明されました。

博士からは、ウィルス発見の経緯、その後のエイズ研究の説明があり、博士は学生時代分子生物学と医学を学んだこと、エイズウィルス発見前の研究履歴にも言及されました。そして、司会の林代表が、学会の講座ではあるが「静岡県内22大学緩やかな連携」を中心とした日本の大学生とモンタニエ博士のQ & Aがメインであり、質問は専門的である必要はないと、若者たちに積極的な参加を呼びかけ、質疑応答が始まりました。参加者からは「エイズに感染しないためにはどうしたらいいか?」「メディアによるパニック、偏見について」「何歳位からエイズ教育を始めたら良いか」「今後の研究は?」等次々と質問が投げ掛けられました。以下は、博士からの回答の概要です。

- \* エイズウィルスは血液・体液を通じて感染するので、血液・体液からの感染を絶つことが予防につながる。静脈注射の消毒、安全な血液・血液製剤を使用する、コンドームを使用する、複数の相手と性交渉しないことが重要。
- \* 空気感染はしないということをしっかりと理解して、エイズ感染者への偏見を無くす必要がある。
- \* 子供をエイズから安全に守るために教育は必要。第二次性徴前の10 - 12歳が適当と思う。性の問題はタブー視されるので教育の難しさがあるが、それは世界共通の問題。そこを打開する必要がある。
- \* 治療法は以前よりはるかに改善されたが完治はまだしない、しかも非常に高価、安価な治療法を考えたい。現在、ワクチンの開発に注力している。解りやすく言うとBCGの予防注射に似たシステムでワクチン開発が可能と考えている。



会場の様子



質問に答えるモンタニエ博士

# Activity Reports April 2004 - March

## TOPIC 1 今年も大野祭りのエイズイベントに参加！



世界エイズ研究予防財団ブース 隣は揖斐高校ブース

2004年10月2日(土)、大野町町民センター前にて行われた大野祭りに、地元の学生たちと一緒に今年も参加しました。大野まつりでのエイズに関するキャンペーンも、祭りの一環としてすっかり町民のあいだに定着した様子が伺われ、それぞれの観点でエイズを理解しようと姿が見られました。当日の募金は、¥2,470になりました。

## TOPIC 2 第五回チャリティーコンサート

2005年2月25日(金)、今年で5回目となる徳江陽子チャリティーコンサート(東京銀座王子ホール)が、財団の研究センターのあるコートジボアールの大使館参事官にも参加していただき、華やかにシリーズ最終回を迎えました。

代表の挨拶では、5年間チャリティーコンサートを継続してこられた徳江先生への御礼、協賛企業への御礼が述べられました。コンサート終了後には、多くの方々から募金をいただきました。協賛金および募金の総額は、¥263,100になりました。



御礼の言葉を述べるコートジボアール大使館参事官

## TOPIC 3 久瀬中学校の生徒さんより募金の贈呈



林代表に募金箱を手渡す日下部君

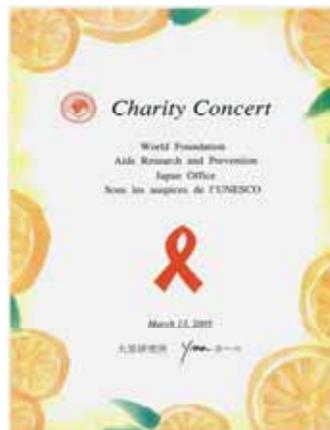
久瀬中学校3年生の日下部君が、2004年11月19日「総合的な学習の時間」で世界のエイズの状況について勉強するために引率の先生と一緒に財団を訪れてくれました。学校に戻った後で募金活動を行い、その成果である2210円を、卒業式の日にお友達と一緒に手渡しに来てくれました。久瀬中の皆さんありがとうございました。



## TOPIC 4

### 岐阜放送「チャリティースペシャル2005」で財団の活動の様子が紹介されました！

2005年3月13日(日)、午後2時から4時、岐阜放送のチャリティースペシャル2005にて、当財団の活動が紹介されました。当日は、財団の事務所が併設されている大里研究所が中継スタジオとなり、生放送での代表のインタビュー、およびチャリティーコンサートの様子が放送されました。また、事前収録のVTRにて、大野町の町ぐるみでのエイズ教育に対する取り組みも紹介されました。チャリティーコンサートには、大田佳弘さん(ピアノ)と、Kiyoshi Gravesさん(歌とギター)にご協力いただき、当日の募金は¥32,400になりました。



大田佳弘さん(ピアノ)



レッドリボン号の前でインタビュー



Kiyoshi Gravesさん(歌とギター)



チャリティーコンサートオンエアの様子



レッドリボンのケーキ



リハーサルを終えて



サインを求める子供達



エイズの現況を語る林代表



コンサート終了後のティーパーティーの様子



# だけは知っておこう！

## HIVの3つの感染経路

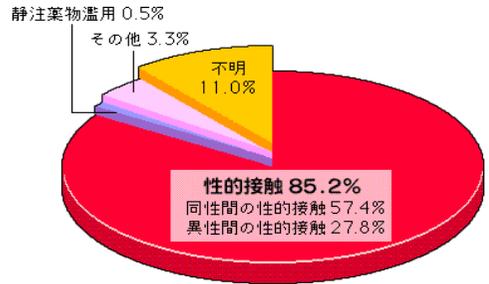


### 性行為による感染

相手がウイルスをもっている  
と粘膜や傷口から

日本におけるHIV感染は  
ほとんどが性感染です。

HIV感染者の感染経路別内訳  
(平成16年6月28日～平成16年9月26日)



\*輸血などに伴う感染例や推定される感染経路が複数ある例を含む



### 血液による感染

注射器の共有  
(麻薬の回し打ちなど)



### 母子感染

妊娠中母体内で  
出産、授乳時に

## 感染が心配な時は検査を受けよう

感染を早く知り、適切な医療を受ければエイズ発症を抑えることが可能となってきています。HIVに感染した可能性があると考えるひとは、抗体検査を受けるようにしましょう。

HIVに感染すると数週間で体内でウイルスが増えて血液中に現れます。その後、2～3週間ぐらいで抗体ができてはじめ、感染後抗体ができるまで通常6～8週間かかります。確実な結果を知るためには、抗体検査は感染したかなと思われる時期から3ヶ月ほど経ってから検査を受けましょう。

- 全国ほとんどすべての保健所や保険センターで無料で検査を受けることができます。
- 検査を受ける前に医師や看護婦によるカウンセリングがあり、相談に乗ってもらえます。
- 住んでいる地域以外の保健所でも検査は可能です。
- 保健所の検査は匿名で行われますので個人のプライバシーは守られます。
- 保健所の検査はたいてい週1回受け付けています。検査の日時を確かめておきましょう。
- 一般の病院や医院でも検査を受けることができます。この場合は有料(5千円～1万円程度)。
- 検査の結果が分かるのはたいてい1週間後です。
- 結果をすぐ知りたい場合、試験的に30分で結果が判明する「即日検査」を行っている医療機関があります。結果が陰性であれば問題はありませんが、もし陽性反応があらわれた時は確認検査を行う必要があり、最終的な結果が出るには数日間必要です。

### 相談・検査・治療情報(エイズ予防情報ネット)

[http://api-net.jfap.or.jp/soudan/soudan\\_Frame.htm](http://api-net.jfap.or.jp/soudan/soudan_Frame.htm)

HIV検査・相談マップ <http://www.hivkensa.com/index.html>

### 「即日30分検査」を行っている医療機関

<http://www.hivkensa.com/cgi-bin/kensa/kensa.cgi?or76=%95%AA%81@%91%A6%93%FA&print=10>

# AIDS Q&A

講演を聞いた東長良中学生の生徒さんからの質問です。

Q: 100%ウイルスを死滅させるような薬はあとどれくらいでできますか？

A: HIVは、地域がちがったり年月がたったりすると、表面の構造が変化する性質をもっています。このことが、誰にでも効く特效薬やワクチンを開発することを非常に困難にしています。モンタニエ博士をはじめ、世界中の科学者たちは日夜研究に取り組んでいますが、感染しても完全に治すことのできる特效薬や、感染を完全に予防できるワクチンの開発に成功するには、まだ10年以上も時間がかかると考えられています。

Q: エイズ患者になったとき、細菌のない病院の無菌室にいたらどうなるのですか？

A: 風邪等の感染症にかかる可能性は確かに低くなるでしょう。しかし、身体の内部にいる菌がなくなるわけではないですし、無菌室にいること自体が治療になるわけではありません。通常の生活をできない苦しみやストレスの大きさなどデメリットも大きいでしょう。また、患者さんを完全に隔離しておくことは人権の意味からも無理なことです。大切なことは、HIVに感染していたら、早期にそれに気づきエイズが発症しないよう治療をし、他の人にうつさないようにすること、そしてなにより感染しないようにすることです。

Q: HIV感染者の状態の時にインフルエンザなどの病気にかかったらどうなるのですか？

A: インフルエンザは、普通のかぜに比べて感染力が強く、通常の場合、突然の発熱・頭痛・悪寒・関節痛・筋肉痛・だるさ・せき等で始まり、遅れて気道、鼻腔、結膜に炎症が起こります。鼻汁やたんも出てきます。発熱は普通のかぜに比べてずっと高く[39~40度の高熱]であることが多く、[2~3日]持続します。しかし発熱は長くても[5日以内]で下がります。健康な人なら1週間程度で自然に治るのですが、病気への抵抗力が弱いHIV感染者の場合、気管支炎・肺炎・中耳炎等などの合併症や脳症を引き起こして重症になる可能性が高く、死亡する場合があります。乳幼児や高齢者、心臓病や糖尿病などの成人病患者、さらにガン患者、臓器移植者、妊婦等の免疫力の低下した人たちと同様に注意が必要です。



Q: HIVに感染すると自分で異変に気がつくことが出来ますか？

A: 初期に自分で異変に気がつくことは無理でしょう。HIVに感染すると、感染後数週間以内に一部の人に「かぜ」症状が出るという情報があります。これらの症状には、発熱、のどが痛い、咳が出る、体がだるい、節々(ふしぶし)が痛む、リンパ節が腫れる等があります。しかし、ほとんどの場合HIVに特徴的な症状はありません。別のウイルスに感染した症状かもしれません。これらの症状は普通の人でも、1年間に数回はこのような症状を経験するでしょうし、自然に消えてしまいます。その後は症状のない状態が続きます。日常かかる軽い病気になっても、HIVに感染してからすぐには免疫能が低下しないので、普通の人のように治ってしまい、特別なことは起こりません。この期間は人によって10年以上にわたります。この間はエイズの検査を受けない限りHIV感染がわからないのです。ですから自分でも気づかない場合が多いのです。

Q: エイズはどこで発生したのですか？

A: エイズはアフリカで最初は風土病として限られた地域で起きていた病気と考えられています。それが人間文明の歴史の中で、ヨーロッパなどが植民地として社会を変え、近代文明の発達とともに自然もいじられるようになりました。そうすると一部の地域に限られて存在していたHIVなどが少しずつ外の世界へ広がっていったのです。ウイルス自体は自然が作ったものだけ、その流行は文明の所産として人間社会が起こしたのです。エイズ流行は人間社会の矛盾を描き出す鏡でもあります。HIVは社会の弱いところに流行していきます。世界的にはいわゆる発展途上国です。アフリカの一部の国では、それが極まっていて国家そのものが存亡の危機に瀕しています。発展途上国でも先進国でも貧困や偏見差別と密接に関係しているのがエイズの大きな課題です。

Q: 血液、母子でうつることは、わかるのですがどうして性交でもうつるのですか。理由を詳しく教えてください。

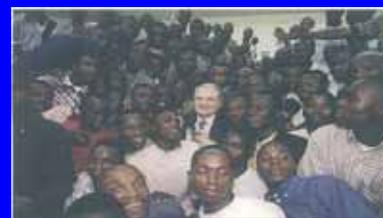
A: HIVは感染した人の体内の血液・精液・膣分泌液中に大量に存在しています。男性感染者の精液や女性感染者の膣分泌液の中に含まれるため、性行為では性器の粘膜とこれら精液・膣分泌液、場合によっては血液が濃厚に接触するため、相手が感染した人だった場合、それらの体液中のHIVが粘膜を介して体内に感染する可能性が高いのです。粘膜とは体の表面の中でぬれたところと考えてください。口・鼻・目・尿道・膣・肛門などの表面です。粘膜では生きた細胞が表面に出て、体液や細胞が通過しやすいようできています。HIVが感染する特殊なリンパ球も性器の粘膜(尿道や膣)にはたくさん存在するので、余計に感染しやすいのです。

Q: 子供をつくる場合、相手がHIV感染者の場合、子供をつくることのできないのでしょうか？

A: 2年生女子からの質問でしたので、「結婚相手の男性がもしHIV感染者である場合、自分や子供が感染せずに出産することは可能か？」という意味の質問でよろしかったでしょうか？夫である男性がHIV感染者である場合、一般的には女性や子どもへの二次感染率のリスクを考慮し、妊娠を避けるようにと指導がなされ、子供を断念する夫婦が多いのが現実でした。しかし、抗HIV療法の有効性が明らかになるにつれ、子どもを希望するカップルが増えてきました。現在は、調整された(HIVウイルスをほぼ完全に除去した)精子浮遊液を用いた人工授精による安全な方法が開発されつつあり、母児ともに二次感染することなく妊娠・出産することに成功した例もあります。

# ～ チャリティー報告 ～

チャリティーグッズの販売の収益金、当財団の活動への協賛企業様からの寄付金、個人や学校、PTAなどからの寄付金など、今年も皆様から暖かいご協力をいただき、スタッフ一同大変感謝しております。収益金および皆様の寄付金は、アフリカ、コートジボワールにあります当財団のアビジャンエイズ研究センター（1996年4月、コートジボワール政府とユネスコの協力を得て設立）へ治療・研究費として送金しています。今年も、4月14日に3500ドル（379,365円）を送金することができました。今後共、ご支援・ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。



\*\*\* 寄付金はこちらまで \*\*\*

口座名義：ユネスコ協賛（財）世界エイズ研究予防財団 日本事務所

銀行名：大垣共立銀行 本店 口座番号：普通 715083

ご存知ですか？  
**レッドリボン**は  
何を意味するの？



“レッドリボン(赤いリボン)”は、もともとヨーロッパに古くから伝承される風習のひとつで、病気や事故で人生を全うできなかった人々への追悼の気持ちを表すものでした。

この“レッドリボン”がエイズのために使われ始めたのは、アメリカでエイズが社会的な問題となってきた1980年代の終わり頃でした。このころ、演劇や音楽などで活動するニューヨークのアーティスト達にもエイズが広がり、エイズに倒れて死んでいく人達が増えていきました。そうした仲間達にたいする追悼の気持ちと**エイズに苦しむ人々への理解と支援の意思**を示すために“赤いリボン”をシンボルにした運動が始まりました。この運動は、その考えに共感した人々によって国境を越えた世界的な運動として発展しています。当財団でも、チャリティーグッズとしてレッドリボンバッジを販売(¥1,000)しています。このレッドリボンの意味を知りエイズについてみんなで考えましょう。

世界エイズ研究予防財団 日本事務所

〒501-0501 岐阜県揖斐郡大野町稲富1956 Tel: 0585-34-3850 Fax: 0585-34-3858  
E-mail: [wfarp@ori-japan.com](mailto:wfarp@ori-japan.com) Website: <http://www.ori-japan.com> 内

